

サークル活動推進に関する提案

1. 提案概要

学生の自主性を最大限尊重し、学生自らの企画・運営によるサークル活動を推進することで、主体性・協働性の向上とキャンパスライフの充実を図る。

2. 提案の背景・目的

本校では専門職教育として高度な知識・技能の習得が求められている一方、学生の主体的な活動機会の拡充が課題となっている。特に以下の点が挙げられる。

- ・ 学生主体の活動機会の不足
- ・ 学科間及び学年間交流の限定性
- ・ 自主性・リーダーシップ育成機会の不足

これらの課題に対応するため、**学生の自律的運営を基本とするサークル活動の導入・活性化**を目的とする。

3. 提案内容

(1) サークル活動の基本方針

サークル活動は、**学生のみで自主的に運営する組織**とし、以下を基本とする。

- ・ 企画・運営・意思決定はすべて学生主体で実施（顧問教員は置かない）
- ・ 学校は管理ではなく「環境整備・安全面支援」に限定
- ・ 自己責任と協働を前提とした活動

(2) 活動目的

- ・ 主体性・自己管理能力の育成
- ・ コミュニケーション能力の向上
- ・ 学科及び学年横断的な交流促進
- ・ 心身の健康維持及びリフレッシュ
- ・ 看護職に必要なチームワーク力の涵養

(3) サークル活動の例

分野	内容例
健康・運動系	バドミントン、バスケットボール、バレーボール、ダンス
趣味・文化系	音楽、写真、陶芸、カフェ巡り
学術系	国家試験対策、症例検討、手話、医療英語
交流系	イベント企画、学生交流会

(4) 学校の関与（最小限の支援）

顧問教員は設置せず、日常的な指導・監督は行わないが、安全管理・秩序維持等の観点から以下を実施する。

- 活動場所（教室・施設）の提供
- 必要に応じた事務的助言（サークル事務担当窓口の設置）
- サークル運営に関するルール提示（ガイドライン参照）
- 緊急時の対応体制の整備

4. 期待される効果

- 自律的行動力の向上
- 問題解決能力・意思決定力の向上
- 学生同士の連携強化
- 学習意欲の向上（ピアラーニング効果）
- ストレス軽減および学校生活満足度の向上

5. 留意事項（前提・リスク）

- 顧問教員がいないため、活動の安全管理は学生自身が担う必要がある
- 学業への影響を防ぐため、活動時間・頻度の自己管理が必要
- 医療系学生としての倫理・社会的責任を自覚すること
- 事故・トラブル等の発生時には速やかに学校へ相談すること
- 責任者に業務が集中しないよう役割分担を明確化すること

6. 学生へのメッセージ

本制度は、皆さんの「主体性」を最大限尊重することを前提としています。
サークル活動は、単なる課外活動ではなく、自ら考え、行動し、仲間と協働する貴重な学びの機会です。

責任ある自由のもと、積極的な参加と新たな挑戦を期待します。
